

日本赤十字社三重県支部第3班救護班を派遣 第2班に続き珠洲市での避難所評価、巡回診療を実施

【派遣期間】

令和6年1月22日（月）～1月26日（金）

【派遣職員】

医師1名、看護師長1名、看護師2名、主事2名、支部職員1名

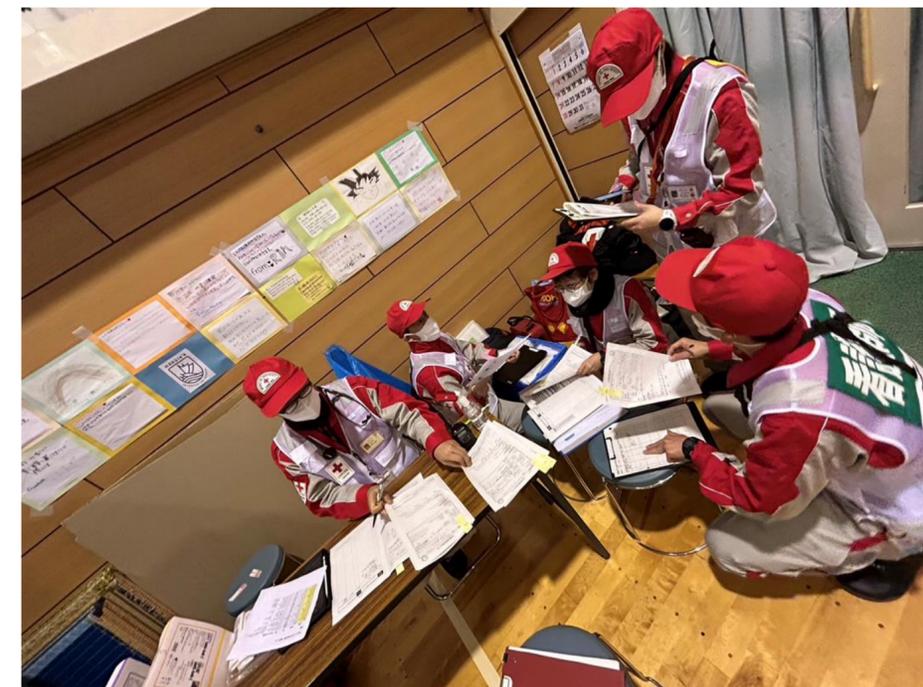
【状況】

救護班第3班は、珠洲市内に設けられた避難所の現状把握と巡回診療を担当した。地震発生から3週間が経過したが、珠洲市内は水道が復旧しない状態が続いており生活の見通しは全くたたない状況であった。現地活動期間の3日間は今季最強の寒波により大雪となった。強風や吹雪で視界不良となり、降り積もった雪により亀裂のある道路は損傷箇所が分からなくなり、避難所まで細心の注意を要しながら車両を進めた。避難所を回り、各避難所のライフラインや過密度などの環境、衛生状態、医療・福祉的な支援が必要な被災者がいるかどうかをひとつずつ確認していった。長期に渡る避難生活の影響により、咳嗽・咽頭痛・発熱など感冒症状を訴える人も多く、Covid感染症も増加傾向にあったが、Covid感染症を診断しても、平時の隔離の概念が避難所の規模や環境では通用しないため、避難所毎に臨機応変に対応し感染爆発を防ぐべく衛生環境の整備を再確認した。小・中学校巡回時では、学校の授業が再開されており、生徒達の元気な声を耳にする事ができたのは明るい材料であった。

・ 総訪問施設数：6施設 ・ 総診察人数：40人



吹雪の中でアセスメントの準備をする様子



体育館にて診療を行う様子